

ゆくつと

黄色い葉っぱ、赤い葉っぱ、もう見つけたかな？

環境教育(自然環境)を身近な教育にするには

千葉県少年自然の家も取り組む環境教育は、とてもすると難しいと考えられ敬遠されがちです。本当にそうなのでしょうか？環境コンサルタントの憐イーエストウエンティ・ワン代表取締役である渡辺良男さんにお話を伺いました。



環境教育の指導は、地域によって異なるが、教育委員会の認定を受けた環境ボランティアや環境NPOの方々が、各学校へ派遣又は委託されて実施している事が多く、先生が直接指導をしている学校は少ない。



これでは、指導が断片的になったり、その学校のニーズに合った教育ができなかったりと問題も多く、授業として軌道に乗せるために苦労している学校は少なくないようだ。

環境教育を定着させるには、現場の先生が子ども達と共に身近な自然の営みに目を向けて関心を持つところから始めていただきたい。先生方、「環境教育だからといってあえて好きでもない生き物に触れることはありません。思った以上に環境教育の材料となるような自然は身近なところにあるものです」。

環境教育の主人公は、先生や子ども達、その保護者であり、我々のような専門家はそのお手伝いをする脇役であるべきと考えます。我々が講師として子ども達に指導をしている時、先生達は引率者ではなく、我々と共に指導者として活躍していただけることをお待ちする次第である。

「総合的な学習の時間」が導入された当時から、環境教育に向けられた期待は大きく、以来さまざまな試みがなされてきたようだ。大型書店の自然環境関連の書棚には、それぞれのレベルに対応できる図鑑や専門書が並べられている。また、教育指導書のコーナーでも環境教育にかかわる指導手引き等が多く販売されており、まさに「かゆいところに手が届く」ごとく、ソフト面では充実してきていると思われる。しかし、インターネット検索で各学校の環境教育の実例を探してみると、学校自慢のピクトブや野外学習の体験等、活発な活動が見られる学校もあるが、このような実例は決して多くないようだ。



主編報告 クライミングウォール指導者講習会

千葉県少年自然の家のクライミングウォールをより多くの方々に利用していただくことを目的にスタートしたクライミングウォール指導者講習会も4回目を迎えました。今回は、移動教室で利用予定の千葉市の小学校や少年団体から20団体32名の参加がありました。



この指導者講習会では、実際に子ども達に対してクライミングウォールのプログラムを指導するための技術や安全管理について学ぶことを一番の目的としています。そして、指導者の皆さんにもクライミングウォールの持つ魅力、子ども達に与える効果といったものを体感し、指導に役立てていただくことも同様に大切な目的として捉えています。そのため、講習会は、自然の家のス

タッフ指導によるクライミングウォールプログラムに参加をしながら、その中で指導に必要な技術や安全管理について確認するという内容となっています。参加者の皆さんは、熱心に指導のポイントに聞き入りながらも、楽しんで取り組んでいました。

今後もより多くの子ども達が、少年自然の家のクライミングウォールを体験できるよう指導者講習会を実施していきたいと思っております。以下に、今回参加された方々のコメントをご紹介します。

- [講習会終了後のクライミングウォールに対するイメージは？]
- 達成感を感じさせることの出来るものだと思います。
- 自分から挑戦したいという気持ちがある。
- やっているうちに夢中になり達成感がある。
- グループで一体感が生まれる。



皆さんをディスプレイでお出迎え

千葉県少年自然の家では利用者の方々にディスプレイを通して季節を感じていただきたいと思い、施設内に植物や生き物などの季節を感じるものや季節の行事などをテーマとしたディスプレイを行っています。



現在は、最初に利用者の方をお迎えするサービスセンターの入り口や受付カウンター、掲示板、そして宿泊棟の各階の掲示板にディスプレイを施しています。

このディスプレイは、スタッフによるものだけでなく、ボランティアの協力によって成り立っています。また、「鯉のぼり」のように地元の方に寄贈していただいたものもあります。今後もこのディスプレイが、装飾の得意な方や興味を持っている方のボランティアとしての活躍の場となる

ようにと考えています。また、利用者の方々に季節を感じていただくだけでなく、ディスプレイを通じて、ご家族や子ども達と指導者の皆さんの間に新たな会話が生まれ、さらにその会話を通して自然の家での活動に更なる楽しさや広がりができることを期待しています。来所の際は、ぜひディスプレイにご注目ください。

